

石神中学校だより16号

発行日：令和2年12月9日

2020重点目標〈自ら学び、夢の実現のためにやり抜く生徒〉 文責：校長 佐藤恭司

地域清掃活動を行いました

～二宮尊徳・富田高慶の墓地周辺清掃～

12月3日、1年生のボランティアメンバーは、学区内にある二宮尊徳・富田高慶の墓地周辺の清掃活動を行いました。墓地は、旧住宅跡（石神生涯学習センター）の東隣にあります。尊徳の墓は、昭和30年(1955)、百年忌を記念して栃木県日光市の報徳二宮神社にある墓をかたどって建てられたもので、尊徳ゆかりの品物が埋葬されています。同じ墓地内には尊徳の妻歌子、尊徳の子尊行、尊行の妻餃子、孫尊親の妻モト子の墓もあります。高慶の墓は明治23年(1890)に亡くなった時に建てられたものです。本校では、総合的な学習の時間を活用し、地域文化理解及び継承として、報徳仕法に関する教えやそこに携わった方々の活躍なども学んでいます。

生徒たちは、先人たちが眠る墓石周辺清掃活動を意欲的に行っていました。



第2回校内レクリエーション大会

12月7日から、各学年ごとのレクリエーション大会が始まりました。今回も生徒が中心となり、競技種目選考や運営などを積極的に取り組んでいます。笑顔あふれるシーンが随所に見られています。コロナ感染拡大防止の中、学校生活のストレス発散にもなっていることでしょう！



(12月7日 1年生バスケットボール)



(12月8日 2年生バスケットボール)

生徒に知って欲しい生活に役立つ“ことわざ”Ⅱです。

「果報は寝て待て」



かほうはねてまて 努力の結果を待つときは、やるべきことがすんだら、慌てず、焦らず、寝て待つくらいがよいということです。テスト勉強、やるべきことはすべてやった。テストも丁寧に取り組んだから、あとはどんな結果でも受け入れよう。自分の力を出し切ったのだから、結果は必ず付いてくるはず、最後にはそう信じて気軽に結果を待ちましょう。

※果報：幸運、幸福

第2回避難訓練を行いました！



模擬地震後、机の下に避難する生徒たち



消防署員の講話を聞く生徒たち

11月25日、第2回避難訓練を行いました。昨年も台風や大雨による水害や東日本大震災の余震と思われる地震の継続により、身の安全を守るための避難訓練は欠かせません。今回は、生徒には事前周知は行わないで実施しました。模擬地震発生後、3階理科室より火災発生、延焼のおそれがあるため、体育館（雨天のため）に避難しました。合わせて、先生方の初期消火や消防署への通報訓練も行いました。突然の訓練にも関わらず、誰一人として騒いだり、話をしたりすることもなく、落ち着いて冷静に避難する姿が見られました。消防署員の方々からも褒めていただきました。「いつ、何時、どこで起こるか分からない災害に対して、自分の命を守るための行動・避難はどうあるべきか」を常に意識させながら、取り組ませたいと考えています。今回の避難訓練を契機にご家族でも話題にして下さい。備えあれば憂いなし！

～ねがい～

本から学ぶ事①

フランソワーズ・サガン（愛と同じくらい孤独:新潮社）より

「大人になること」

「年を取ることで、何かを得た代わりに、何かを一つ失っている。勉強したことで、眠る時間を少し失った。目尻に見えないしわが一本できた……」。こうして誰もが少しずつ大人になっていくのである。地位を手に入れる代わりに、友達を失う人もいるだろう。お金を手に入れるために、自由な自分の時間を失う人もいるだろう。ただ言えることは、生きていれば、確実に新しい何かを手に入れることができるということだ。たとえ自分の張りのある皮膚を失っても、いい知識を得、いい体験をし、何かを得られるのである。年を取る、大人になるとは、そういうことかもしれない。だが、失うことを恐れてはいけない。大切なのは、何を失い、何を得るかということ。生きるとは、また、それを見つけることである。

大人になるということは、ある意味、ゴールがないのかも知れません。いくつになっても、ひたすら、「大人になること」を目指して、頑張っ
て行こうと思いました。(校長)



